

## 1. 短期予測

(p. 01)

- ①ドル反発へ向かうか？
- ②米朝ぎりぎりの交渉
- ③米韓首脳会談は完全にすれちがい
- ④法輪功の主張
- ⑤反日暴動で対日債務踏み倒し
- ⑥原油更に上昇

## 2. 展望①インド外交の余裕

(p. 05)

### —インド大使講演を聞いて—

筆者が幹事を務める呉竹（くれたけ）会アジア・フォーラムは6月14日（火）夜、都市センター・ホテルで、駐日インド大使マニラル・トルパーティ閣下を招いて講演会を開いた。トリパーティ大使は1946年生まれの職業外交官である。

話は多岐に渡ったが、基本は「インドは実利的な経済外交を米中露日欧と多角的に展開していく」という事であった。キーワードは二つであった。

第一は「包括的で排他的でないアプローチ（inclusive not exclusive approach）、

第二は「多極的世界（multipolar world）」である。

## ③. 展望②ユダヤ系ロシア新興財閥

(p. 10)

### Mikhail Khodorkovsky

本誌先月号（2005年5月）で、ロシアにおけるユダヤ問題を読み解く筆者なりのフレームワークを提示した。ソ連邦崩壊後のロシアでは、ロシア革命後のソ連と同様に、ユダヤ系新興財閥が国家権力の中枢にまで駆け上った。だが、プーチン政権の発足と共に、事実上のユダヤ系新興財閥パージが始まり、彼らのロシア政界における影響力は一挙に衰える事になる。一昨年以来のロシア石油大手Yukos社に対するプーチン政権の弾圧はそのような文脈で理解されるべきである。

ケンブリッジ フォークキャスト グループ 〒133 江戸川区西小岩1-30-5

TEL

03-3650-1475

FAX

03-3650-7873